



神奈川県立横須賀大津高等学校

令和8年度入学者選抜選考基準について

1 選考の資料となるもの

- 調査書の評定（2年次・3年次の9教科）
 - 学力検査（5教科）
 - 調査書の観点別学習状況「主体的に学習に取り組む態度」の評価（3年次の9教科）
- ※ 面接、特色検査は実施しません

2 選考資料の算出方法

【第1次選考】：募集人員の90%を選考

- ・ 調査書の評定（A点）
2年次（9教科45点満点×1＝45点満点）と
3年次（9教科45点満点×2＝90点満点）の合計（135点満点）がA点
- ・ 学力検査（B1点）
学力検査（英・国・数・理・社。各教科100点満点）のうち、英語×1.2倍の合計
（520点満点）がB1点
- ・ 調査書の評定と学力検査の比率
A点：B1点＝4：6



計算方法

$$S1 = \frac{(A \div 135 \times 100) \times 4 + (B1 \div 520 \times 100) \times 6}{10}$$

【第2次選考】：募集人員の10%を選考

- ・ 学力検査（B2点）
学力検査（英・国・数・理・社。各教科100点満点）の合計（500点満点）がB2点
- ・ 調査書の3年次観点別学習状況の「主体的に学習に取り組む態度」の評価（C点）
9教科×3点満点＝27点満点（重点化はなし）
- ・ 学力検査と「主体的に学習に取り組む態度」の比率
B2点：C点＝6：4

計算方法

$$S2 = \frac{(B2 \div 500 \times 100) \times 6 + (C \div 27 \times 100) \times 4}{10}$$





入学者選抜選考基準設定の意図（Q & A）

Q 1：第1次選考において、なぜ学力検査で「英語1.2倍」の重点化を行ったのでしょうか？

A 1：本校は、令和5～6年度において、マレーシアにある2つの大学（テイラーズ大学、アジアパシフィック大学）と教育活動に係る協定を結び、それぞれの大学から3名ずつ、計6名の指定校推薦枠を得ることができました。このことは、神奈川の県立高校の中では、本校だけが行っている取組みになります。そこで令和8年度入学生からは、そうした大学へも進学する生徒たちを育成していくことを念頭に、英語に興味があったり、海外留学に関心があったりする中学生の皆さんにも、受検いただけるようにしようと考えたからです。また、本校は、大多数の生徒たちが、将来は大学へ進学することを意識して入学してきます。そこで、将来、誰もが受験で必要になると思われる科目の英語に焦点を置き、入学後から3か年かけてさらに英語力をつけることで確実に進路実現をしていただきたいと考え、「英語1.2倍」の重点化を行うこととしました。

Q 2：第1次選考の学力検査で「英語1.2倍」の重点化を行うということは、英語の得点力が高くないと、合格はできないのでしょうか？

A 2：「英語1.2倍」の重点化により第1次選考の学力検査は500点満点が520点満点となります。しかしながら、実際に「英語1.2倍」の重点化が合否全体に及ぼす影響はとても小さいため、ほとんどの受検生はその影響を受けることなく第1次選考で合否が決定するものと思われます。また、たとえ影響があったとしても第2次選考では重点化を行わないため、重点化の影響を受けることなく合否が判断されることとなります。よって、「英語1.2倍」の重点化には不安を抱く必要はありませんので、安心して本校を受検いただきたいと思います。

Q 3：第2次選考において、なぜ『学力検査』と『主体的に学習に取り組む態度』の割合を8：2から6：4に変更したのでしょうか？

A 3：第2次選考においては、第1次選考までに合格未確定の受検生を対象に選考を行うこととなるため、選考する高校では少しでも高い学力の受検生に合格してもらえるように選考基準を設定しています。これまで本校では、調査書の各教科の観点の配分が中学校ごとに統一されていないため、統一基準をもって学力を適正に図ることができる『学力検査』に比率の重点を置き、割合を8：2としてきました。しかしながら、入学いただいた方に3年間の高校生活を通じて自己実現（進路実現）を図っていただくにあたっては、5教科以外でも本校でコツコツと教育活動に取り組もうとする資質・能力を持った方に入学いただくことも大切であると判断しました。そのため、中学校でどの教科でもコツコツと学習活動に取り組んできたことが評価されている『主体的に学習に取り組む態度』に対しての比率の割合を2から4へと高くすることとしました。第2次選考では、5教科以外の教科もコツコツと頑張って学習してきた方や、部活動や学校行事、地域のスポーツ・文化活動などにも積極的に取り組んできた方に合格していただきたいと考えております。

【メッセージ】

横須賀大津高校では、今後、英語教育を中核とした学習活動と希望進路を確実に実現できるキャリア教育を両輪としながら、国内の国公立大学や難関・名門私立大学などへの進学、マレーシアなどの海外大学への留学、公務員などへの就職が実現できる3年間の教育プログラムを計画し、実践していくこととしております。

その具体的な内容が決定しましたら、改めて学校説明会や本校のHP等でお知らせさせていただきます。